

# 月刊 河井克行



さあ、進もう未来へ。



平成 29 年

首脳会談後の総理主催晩餐会にて、安倍晋三内閣総理大臣、  
ロドリゴ・ドゥテルテ大統領、河井克行内閣総理大臣補佐官ら  
(平成28年10月26日・総理大臣官邸)

新春  
号

平成28年12月  
平成29年1月合併号

# 第21次ワシントンD.C.&ニューヨーク出張

～安倍総理大臣・トランプ次期米国大統領初会談の先遣～

11月14日(月)～19日(土)、河井克行内閣総理大臣補佐官は、17日にニューヨークで行われた安倍・トランプ初会談に先んじて訪米。トランプ次期大統領と個人的な信頼関係を速やかに構築したいという安倍総理の考えをトランプ氏の関係者に伝えるとともに、新政権の人事や政策などを情報収集することを安倍総理から命じられました。河井克行総理補佐官は過去三年半で20回におよぶワシントンD.C.出張を通じて培った上下両院の共和党有力連邦議員、共和党政権時の政府高官、共和党系シンクタンク・有識者らとの豊かな人間関係を活かして、トランプ陣営の要人たちと積極的に会談を重ねました。そこで得た情報は初会談直前の安倍総理に報告しました。トランプ「政権」の誕生は日米同盟が一層深化するきっかけとなると、河井克行総理補佐官は考えています。



『NHKおはよう日本』(11月17日)

## 訪米の首相補佐官 日米同盟で意見交換

【ワシントン】川合智之(カキトモ)訪米した河井克行首相補佐官は14日、首都ワシントンで米国のドナルド・トランプ次期大統領の外交顧問団の関係者らと協議した。河井氏は会談後に「日米同盟が持つ重要性について意見交換した」と記者団に話した。

会談したのはトランプ氏の外交顧問団の関係者である国家安全保障局(NSA)元長官のスタッフドマン氏ら。

『日本経済新聞』夕刊  
11月15日付

『東京新聞』夕刊  
11月14日付

河井補佐官が訪米首相会談へ「地ならし」  
河井克行首相補佐官は十四日午前、トランプ次期米大統領の周辺との人脈をつくる目的で、米国に向け出発した。ワシントンやニューヨークで関係者と会談を重ね、十七日に予定される安倍晋三首相とトランプ氏の初会談につなげる。十九日に帰国する予定。  
河井氏は十四日、成田空港で記者団に、首相とトランプ氏の初会談を控え「成功するための地ならしを積極的に行っていく」と話した。

## 元NSA長官と首相補佐官会談

トランプ氏の情報収集  
河井克行首相補佐官は14日、トランプ新政権の政策や人事に関する情報収集のために米国を訪問し、ワシントン市内でスタッフドマン元国家安全保障局(NSA)長官やシンクタンク関係者と会談した。河井氏によると、スタッフドマン氏はトランプ次期大統領の上級顧問を務めるウールジー元中央情報局(CIA)長官に近いとされ、「最高水準の個人的な信頼関係を速やかに次期大統領と構築したい」との安倍晋三首相の意向を伝えた。河井氏は15日には、新政権移行チームの執行委員らと面会するという。

## トランプ政権見据え情報収集で米へ出発

河井首相補佐官  
河井克行首相補佐官は14日、米国に向け、民間機で成田空港を出発した。ドナルド・トランプ次期米大統領の新政権発足を見据え、共和党関係者らと会談し、高官人事や政策について情報収集などを行う。19日に帰国する。  
河井氏は出発に先立ち、成田空港で記者団に、「速やかにトランプ氏との個人的な信頼関係を築きたい」という安倍首相の考えを、新政権の中枢(となる政権移行チーム)に直接伝える」と語った。  
8日の大統領選でのトランプ氏勝利を受け、安倍首相が9日、河井氏に訪米を指示した。

『読売新聞』11月15日付

『朝日新聞』11月16日付

# トランプ氏、安倍首相と会談へ

# 「日米重視の姿勢を示す」

幹部が表明

【ワシントン】川合智のニューネス下院議員は16日、訪米中の河井克之【トランプ次期米大統領（下院情報特別委員長）】と安倍晋三首相の会談に、ニューネス氏は17日について「政権づくりについて、訪米中の河井克之は16日、訪米中の河井克之に予定されるトランプ氏に予定されるトランプ氏に予定されるトランプ氏が

## トランプ氏側と 首相補佐官会談

【ワシントン】西田進一郎【米国訪問中の河

井克之首相補佐官は15日、ドナルド・トランプ次期大統領に近い保守系シンクタンク「ヘンリー・ジェンクス財団」のジム・デミント所長や共和党の連邦上下両院議員らとそれぞれ会談した。

河井氏によると、17日の安倍晋三首相とトランプ氏の会談について、全員から「他の世界的指導者との会談に先駆けて実現することへの賛辞と、両首脳間で信頼関係が深まることへの期待が表明され

た」という。

河井氏は、首相の指示を受けて14日にワシントン入り。15日はシンクタンク3カ所の上級幹部や上下両院の4議員らと意見交換。16日はトランプ氏の政権移行チームのメンバーらと面談した後、首相とトランプ氏の会談が行われるニューヨークに向かう予定だ。

トランプ氏は選挙期間中、在日米軍駐留経費のさらなる負担増を日本に求めるなど日米同盟関係の「見直し」

首相と会う時間をつくったのは、日米関係重視の姿勢を示している」と表明した。（関連記事3面に）

米議会でも河井氏と会談した後に記者団に語った。政権移行チームの幹部がトランプ氏の日米外交方針に言及したのは初めて。ニューネス氏は超党派議員連盟「ジャパ・コーカス（日本議連）」の共同議長を務めた経験がある知日派。トランプ氏は大統領選での勝利後、主要国首脳の中で最初に首相と会う。

ニューネス氏は「首相とトランプ氏の会談に非常に興奮している。非常に深い会談になるはずだ」とした。トランプ氏は環太平洋経済連携協定（TPP）反対や駐留米軍経費の負担増などを選挙戦で主張していたが

「報道の多くは真実ではない」とも指摘。「トランプ氏はのみ込みが早く、アジア地域、日本に関するすべての課題に高い関心を持つだろう」とし、トランプ政権が日本やアジアの問題を軽視するとの懸念は不要との見方を示した。

会談後、河井氏は「日米同盟の重要性について（ニューネス氏と）しっかり意見交換した」と述べた。「今回の会談を個人的な信頼関係をつくりあげる第一歩にしたい」との首相の意向をニューネス氏に伝えたという。

河井氏は会談でニューネス氏から「トランプ次期政権と安倍政権の関係を深化させる意味で、自分が果たせる役割があれば何でも言ってほしい」と伝えられたことを明らかにした。ニューネス氏については「一貫してTPP賛成論者だ」とも指摘し、同氏からTPPの助言を受けたと話した。

『日本経済新聞』夕刊11月17日付

## 「首相に手応え」

河井補佐官が帰国

河井克之首相補佐官は19日、トランプ次期米大統領関係者とのパイプづくりのため訪問した米国から民間機で成田空港に帰国した。安倍晋三首相とトランプ氏の会談に関し「首相の表情を見ると、個人的な信頼関係をつくる大きな一歩を刻めたという手応えを持っている」と思つ」と同空港で記者団に述べた。

会談が実現したのは「トランプ氏が日米同盟を最も重要と認識しているからだ」と指摘。同時に「私が集めた情報では、トランプ氏は他の首脳からの会談要請を全て断っている」と明かした。

『日本経済新聞』11月20日付

『毎日新聞』夕刊  
11月16日付

# 日本と会談「関心の表れ」

## トランプ氏チーム議員

【ワシントン】加納宏幸「トランプ次期米大統領の政権移行チームの一員であるニューネス下院情報特別委員長は16日、トランプ氏が組閣作業の時間を割いて安倍晋三首相と17日にニューヨークで会談することについて、「トランプ氏が日米関係に強い関心を持っていること」の表れだ」と説明した。訪米中の河井克行

首相補佐官との会談後、記者団に語った。

ニューネス氏は米議会の超党派の対日友好議員連盟「ジャパン・コーカス」で

共和党側の共同議長を務めたことがある知日派の一人。トランプ氏と安倍首相

の会談について、ニューネス氏は「非常に刺激的な会談になるだろう。トランプ

氏のチームは興味を持って

いる」と述べた。

トランプ氏は、各国首脳と電話協議を続けていること

とを、来年1月の新政権発足への準備が順調に進んでいること

の裏付けとして強調している。

移行チームによるとトランプ氏とペンス次期副大統領

は大統領選後、安倍首相を含む各国首脳ら29人と電話協議した。

14日からワシントンで次期政権に関する情報を収集

していた河井氏は16日にニューヨーク入り。安倍首相

に合流して状況を報告する。

(3面に関連記事)

『産経新聞』11月18日付

# 「トランプ氏は話をよく聞く」

安倍晋三首相と、ドナルド・トランプ次期米大統領の会談に並行して、ワシントンとニューヨークを訪れていた河井克行首相補佐官「写真」が帰国して22日、語った。

「安倍首相が世界の首脳に先駆けて、トランプ氏と会談したのは本当に良かった。」

首相はペルーの首都リマで開かれたAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の席で、各国首脳から『どんな話だったか』と質問攻めにあった、という。オバマ米大統領の側近からも質問された、と聞いたトランプ氏の側近が、河井氏に言ったという。

「世界の多くの首脳から早く会いたい」と申し込ま

れているが、すべて断っている。では、どうして安倍首相だったのか。河井氏が推測を交えて言った。

「トランプ氏は、安倍首相を必要としていた。トランプ氏は公職の経歴、つまり政治経験がまったくない。一方、安倍首相は世界の指導者と信頼関係を築いてきた。しかも国内政治が安定している。トランプ氏はこれから世界の外交のひのき舞台に上がる。首相から、いろいろ示唆を受けたかったようだ」

会談の結果は、

「安倍首相は会談内容を誰にも話していない。しか

し、おそらくウマが合った。会談が終わった後、内輪の夕食会があったが、首相の表情を見て分かった。『うまかった』と満足そうだった。トランプ氏はどんな人物か。

「多くの側近や共和党幹部と会ったが、『選挙中の演説で見た、赤鬼のような映像は実際とは違う』という

「トランプ氏周辺からは『あまり選挙中の一言一句を心配しない方がいい』と言われた。新政権は共和党政権であり、新大統領は上下両院を制した共和党と協調するしかない。そして、共和党幹部は、日本など同盟国の重要性をよく分かっている」

安倍政権にとっては。トランプ政権は追い風になるだろう。日米同盟が、さらに強固になる契機となる」

(政治評論家)

河井補佐官「首相はウマが合った」



5496

「トランプ氏は、安倍首相を必要としていた。トランプ氏は公職の経歴、つまり政治経験がまったくない。一方、安倍首相は世界の指導者と信頼関係を築いてきた。しかも国内政治が安定している。トランプ氏はこれから世界の外交のひのき舞台に上がる。首相から、いろいろ示唆を受けたかったようだ」

声が多かった

実際はどうなのか。

「人の話をよく聞く。聞くけれど、最後に決めるのはトランプ氏本人だ。家族を愛し、大事にしている。一番かわいなのは長女のイバンカさん。夫のジャレッド・クシュ

「トランプ政権は追い風になるだろう。日米同盟が、さらに強固になる契機となる」

(政治評論家)

河井氏は会談の前、安倍首相にアドバイスしたという。

「トランプ氏が喜ぶ話題は3つ。大統領選と家族、それにゴルフだ」

これから日米関係はどうなる。

「トランプ氏周辺からは『あまり選挙中の一言一句を心配しない方がいい』と言われた。新政権は共和党政権であり、新大統領は上下両院を制した共和党と協調するしかない。そして、共和党幹部は、日本など同盟国の重要性をよく分かっている」

安倍政権にとっては。

トランプ政権は追い風になるだろう。日米同盟が、さらに強固になる契機となる」

(政治評論家)

河井補佐官「首相はウマが合った」

『夕刊フジ』11月25日付

# 米新政権で日米同盟は

米国の次期大統領にトランプ氏が決まったことを受け、日本政府は安倍晋三首相が訪米して17日夕（現地時間）に会談するなど、新政権との関係構築に向けた準備をいち早く進めている。安倍首相に先駆けて米国を訪れ、政権移行チーム幹部たちと会談した河井克行首相補佐官（広島3区）は「トランプ氏とその周辺は日米同盟の重要性を認識している」との受け止めを示した。

（野崎建一郎）

首相補佐官

河井克行氏(広島3区)



「トランプ氏は大方針を示して部下に任せる仕事をすると聞いた」と、米国での情報収集の成果を話す河井氏

永田町発

## トランプ氏 重要性認識

「今回の渡米の目的は。安倍首相は会談前に、地ならしとして私を派遣した。14日から6日間の日程で、政権移行チーム幹部の一人であるニューネス下院議員や、閣僚候補に挙がるコットン上院議員たちと話した。首相からはこうしたトランプ氏に近い人たちに二つのことを伝えるよう言われた。」

「今度の渡米の目的は、安倍首相は会談前に、地ならしとして私を派遣した。14日から6日間の日程で、政権移行チーム幹部の一人であるニューネス下院議員や、閣僚候補に挙がるコットン上院議員たちと話した。首相からはこうしたトランプ氏に近い人たちに二つのことを伝えるよう言われた。」

「しかし、トランプ氏は大統領選で米軍駐留費の負担増や環太平洋連携協定（TPP）脱退を明言しており、懸念があります。」

「一つは米国が日本にとって最も重要な同盟国で、首脳同士の信頼関係がその基盤だという考え。もう一つは、日米同盟が双方の国に加え、太平洋地域や世界にとっても重要だというメッセージだ。」

「相手方の反応は。会った全ての人が、日米同盟は普遍的価値で結ばれた揺るぎない同盟だと認識

「トランプ氏が選挙期間中に発した一言一句を捉えて一喜一憂すべきではない」との助言も受けた。真意を冷静かつ正確につかんだ上で日本の国益を追求しなければならぬ。日米関係を深めることが米国の国益にもつながると説明する必要もある。私もそのための役割を果たしたい。」

# 第22次ワシントン D.C. & ニューヨーク出張

～安倍総理大臣の真珠湾慰霊訪問を地ならし～

12月15日(木)～18日(日)、河井克行内閣総理大臣補佐官は、トランプ次期大統領の側近たちと会談するため、ニューヨークとワシントン D.C を訪れました。安倍総理大臣からはトランプ新政権の人事の概要が明らかになるなか、政権準備の最新の情報収集を行うとともに、日米同盟の重要性について重ねて説明してくるようという指示がありました。また、真珠湾訪問は日米和解の価値を世界に発信する機会とする安倍総理の政治決断を丁寧に説明し、理解を得ることができました。

河井首相補佐官が訪米

河井克行首相補佐官は15日、トランプ次期米大統領の側近や政権移行チームの関係者と面会するため、米ニューヨークに向け民間機で成田空港から出発した。安倍晋三首相から指示を受け、新政権の情報収集に当たる。面会を通じて日米同盟の重要性に関し認識の共有化を図る。今月下旬の首相のハワイ真珠湾訪問についても説明し、理解を求める。18日に帰国する。

首相補佐官が訪米

河井克行首相補佐官は15日、18日の日程で訪米し、トランプ次期米大統領の側近らと意見交換する。ニューヨークとワシントンで政権移行チームなどから情報収集し、トランプ氏側に日米同盟の重要性を訴える。今月末に予定する首相のハワイ訪問についても『日米和解の価値を発信する機会だ』という首相の考えを丁寧に説明して理解を得たい(河井氏)としている。

『日本経済新聞』夕刊12月15日付

『中国新聞』12月16日付

# 第3次フィリピン共和国出張

12月11日(日)～13日(火)、河井克行内閣総理大臣補佐官は四度目となるロドリゴ・ドゥテルテ大統領との会談を行うためマニラに赴きました。河井総理補佐官の顔を見るなり、大統領は満面の笑みを浮かべ「マイ・フレンド」と温かく歓迎。会談では、十月の東京での安倍総理大臣との首脳会談が大成功だったとの受け止めと、安倍総理への深い信頼と敬意が示されました。ちなみに、大統領は日本語を勉強していることを明かしました。

さらに、ラモス元大統領やメディアルディア官房長官と会談したほか、日本政府が外国に初めて派遣した薬物対策支援調査団の結団式とタギグ市にある薬物リハビリ施設の視察も行いました。

河井首相補佐官  
比大統領と会談

【マニラ＝河井ゆう子】

河井克行首相補佐官は12日、訪問先のフィリピン・マニラで、ドゥテルテ大統領と会談した。河井氏は会談後の記者会見で、「『社会経済発展や安全保障協力の強化を着実に進め、(日比の)連携を深めたい』という安倍首相の考えを伝えたい」と述べた。首相は来年1月にもフィリピンを訪問する方向で調整している。一方、法務省、厚生労働省の職員らで構成する日本政府の調査団が同日、マニラ首都圏の麻薬中毒者更生施設を視察した。首相は10月のドゥテルテ氏との会談で、日本政府として麻薬対策を支援する考えを伝えており、視察や当局との協議を通して今後の具体的な支援策を詰める見通しだ。

『読売新聞』12月13日付



TBS ニュース (12月13日)



ラモス元大統領と寛いだ雰囲気での会談



警察庁、厚生労働省、外務省などから構成される薬物支援対策調査団の結団式で激励する河井克行総理大臣補佐官

# 薬物対策で比支援

## 河井補佐官が大統領と合意

### 調査団、更生施設を視察

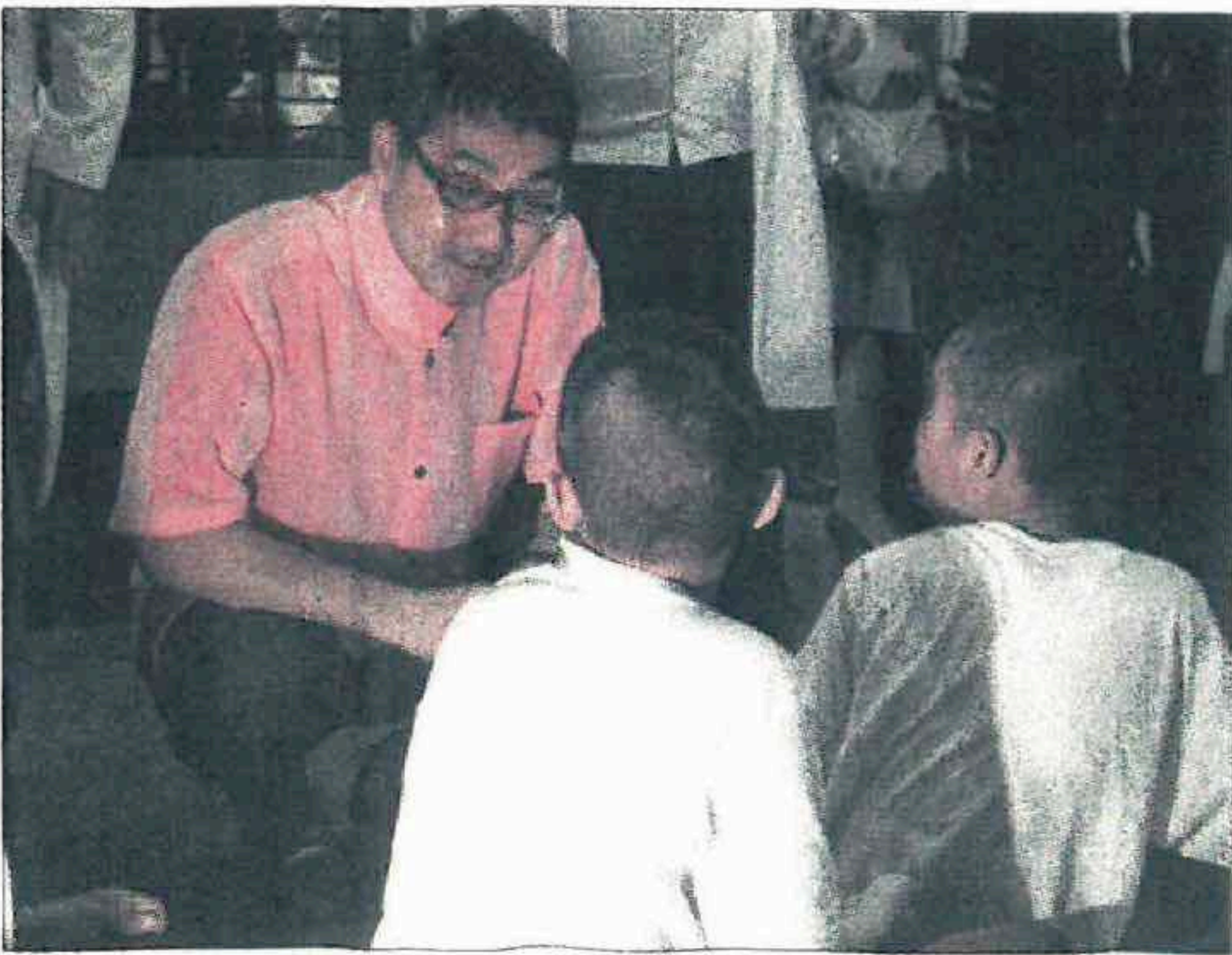
薬物対策支援の調査で、河井補佐官は12日午後、大統領府でドゥテルテ大統領と会談し、薬物対策支援で日比両国が協力することで合意した。河井補佐官は関係省庁で構成する調査団のメンバーとタギグ市の薬物中毒者リハビリテーション施設を視察した。

河井補佐官はドゥテルテ大統領との会談で、日本が薬物対策について比に協力する意向を伝達。大統領は「日本の支援を心から歓迎する」と感謝の意を示した。

河井補佐官と調査団は、比厚生省が運営するタギグ市の薬物中毒者リハビリテーション施設を視察。施設の精神科医や職員から施設の現状や更生プログラムの説明を受けた。

施設は550人の定員に対し、政権が進める麻薬撲滅政策で入居人数が急増。現在は10、77歳までの男女1291人が入居。過密化が深刻化しているため、施設や寮増設の必要性を比政府は強調した。

河井補佐官は「日本は世界最高レベルの薬物対策と教育に成功している。比に対しても高い技術での支援が可能」と述べた。外務、厚生労働両省など15人の調査団は、比の9省庁と協議を行い、支援内容について検討、迅速に実行に移していく方向を確認した。



リハビリ施設で更生プログラムを受ける10代入居者に話しを聞く河井補佐官。12日午後4時ごろ、富田すみれ子撮影

同施設で医療チーム代表を務めるレオプレス医師は調査団に対し、医師や職員の不足なども訴えた。(富田すみれ子)

『日刊まにら新聞』  
12月13日付

# 「ふるさとづくり実践活動チーム」 初視察を滋賀県長浜市で

地方創生や一億総活躍社会の実現をめざす安倍総理大臣が河井克行総理補佐官に与えた特命のひとつが、「ふるさとづくりの推進」です。全国から選り抜きの専門家十三人を集め十月に発足した「ふるさとづくり実践活動チーム」の第一回現地視察・交流として、12月5日(月)～6日(火)、河井克行総理補佐官は滋賀県長浜市を訪れました。藤井勇治市長やまちづくり団体の皆さまと充実した意見交換を行うことができました。



NHKニュース (12月5日)

# 講演、出演、取材が相次ぐ

外交を担当する内閣総理大臣補佐官としての動きにメディアの関心が高まっています。11月24日(木)、CS・TBSニュースバード政治対談番組『国会トーク フロントライン』に出演し、安倍官邸外交などについて語りました。つづいて、2017年1月号『中央公論』「トランプ時代が始まった～首相補佐官として訪米して」の取材に応じました。さらに12月21日(水)、千葉「正論」懇話会に招かれ、米国トランプ次期政権と日米同盟について講演を行いました。



CS・TBS『国会トーク フロントライン』に出演

**かわいかつゆき**  
1963年広島県生まれ。慶應義塾大学卒業後、松下政経塾に入塾。96年衆議院議員選挙に初当選(広島三区)。衆議院外務委員長、法務副大臣、自民党国防部長など歴任。2015年より外交担当首相補佐官に就任。当選6回。

二カ月前から訪問は決まっていた。アメリカ大統領にドナルド・トランプ氏が選出されたことを受け、十一月十四日から十九日まで訪米して参りました。ご存じの通り、各国首脳に先駆けて安倍晋三首相がトランプ氏と会談されましたが、私の任務はその地ならしと、今後の日米関係深化に向けた政権移行チーム幹部、トランプ氏に近い共和党有力議員や保守系シンクタンク首脳らとの意見交換です。

一部報道では、トランプ氏の選出に慌てた総理官邸が私の派遣を決めたと言われました。しかし、訪米は二カ月前から総理との間で話に上っていたこと。一カ月前には、大統領選でトランプ氏が勝つともヒラリー・クリントン氏が選ばれるようとも、十四日に発つことと、どちらにでも協力が絶対不可欠なのです。

選挙中のトランプ氏は、過激な発言で注目を集め、熱狂的な支持者たちから喝采を浴びていました。しかし、私が氏の側近や、共和党関係者らに話を聞くと、「選挙中の一言一句をとらえて、一喜一憂するべきではない。彼はこれから現実的な政策を打ち出していくだろう」と発言していました。実際、そうなることと期待しています。というのも、アメリカは議会の権能が強く、いかに大統領といえども、連邦議会と協調し



特集●トランプ時代が始まった

## 首相補佐官として訪米して

内閣総理大臣補佐官・衆議院議員 河井克行

面談できるより、具体的な会談の取り付けが始まっていたのです。安倍首相とトランプ氏の面会は、首相会見にもあったとおり、個人的信頼関係を作る第一歩として、大成功となりました。これから日米同盟が一層深化する契機となると感じています。

**駐留経費の増額要求はありえる**

今回、政権移行チーム執行委員や閣僚候補らと会談して感じたことは、トランプ氏は安倍首相を強く必要としているということです。

今、グローバル化の影響で世界各国の内政、外交が揺らいでいます。そんな中、日本ほど安定した政権基盤を持つ先進国はありません。トランプ新政権が民主主義や資本主義など、普遍的な価値観を共有し、世界と対話していくためには、日本との

ないとい先に進まないからです。これからは共和党やシンクタンクからの助言を受け、現実的な政策を実行していくことになるでしょう。

一方、政治経験がないがゆえ意思決定に予測がつかない、または側近の提案がそのまま実行されるおそれもあります。日米同盟の重要性は共和党関係者らも共有するところですが、日本の防衛費増額や米軍駐留費の負担増を言ってくる可能性はあると思います。

たとえば、トランプ氏の外交安全保障顧問のアレクサンダー・グレイ氏と経済顧問のピーター・ナヴァロ氏は、投票前日付の外交専門誌『フォーリン・ポリシー』で、日米同盟を「アジアの平和と安定をもたらすもの」と評価しながらも、駐留経費を大幅に引き上げるよう提言しています。日本は在日米軍関係経費

## 『中央公論』2017年1月号



千葉「正論」懇話会

## トランプ次期政権「同盟深化進む」

河井克行氏が講演

千葉「正論」懇話会(会長 千葉滋胤・千葉商工会議所顧問)の第58回講演会が21日、千葉市美浜区のホテルニューオータニ二幕張で開かれ、河井克行首相補佐官が「外交担当総理補佐官の目に映った米国トランプ次期政権と日米同盟」と題して講演した。写真(城内和義撮影)。

トランプ次期大統領の側近らと接触を重ねてきた河井氏は、先月の安倍晋三首相とトランプ氏の初会談について「日本を最も重要な同盟国だと認識していなければ、いの一にに会談をすることはあり得ない」と、トランプ氏が安倍政権を長く仕事ができる相手と考えているとの見解を示した。河井氏は

「トランプ政権の誕生は、日米同盟の一層の深化を進めるきっかけになる」として、経済成長と雇用創出に日本の企業が貢献できることや、インド・太平洋地域の安全保障協力を理由に挙げた。

## 『産経新聞』12月22日付



# 新たな直轄砂防事業が始まっています

～三たびの豪雨災害を防ぐ決意を新たに～

11月7日(月)、河井克行代議士は国による「広島西部山系直轄砂防事業」の新規事業現場である安佐南区緑井、安佐北区安佐町飯室・可部・可部東・大林の各地区を国土交通省の案内で視察しました。地域住民の生命と財産を守るために、河井克行代議士はこれからも直轄砂防事業の予算確保に全力を挙げます。



## みつやかい 後援会「三矢会」の活動が各地で広がっています



中筋学区・東野学区有志による「行動隊」が結成（10月29日）



倉掛支部発足式（11月3日）



海徳裕志市議が激励に。梅林支部国政報告会（11月5日）



安佐・高田・山県地域医療関係団体長懇談会が開催、医師会・歯科医師会・薬剤師会会長・役員の皆さまと（11月12日）



A-City 支部発足式 (11月20日)



伴・大塚支部発足式 (11月21日)



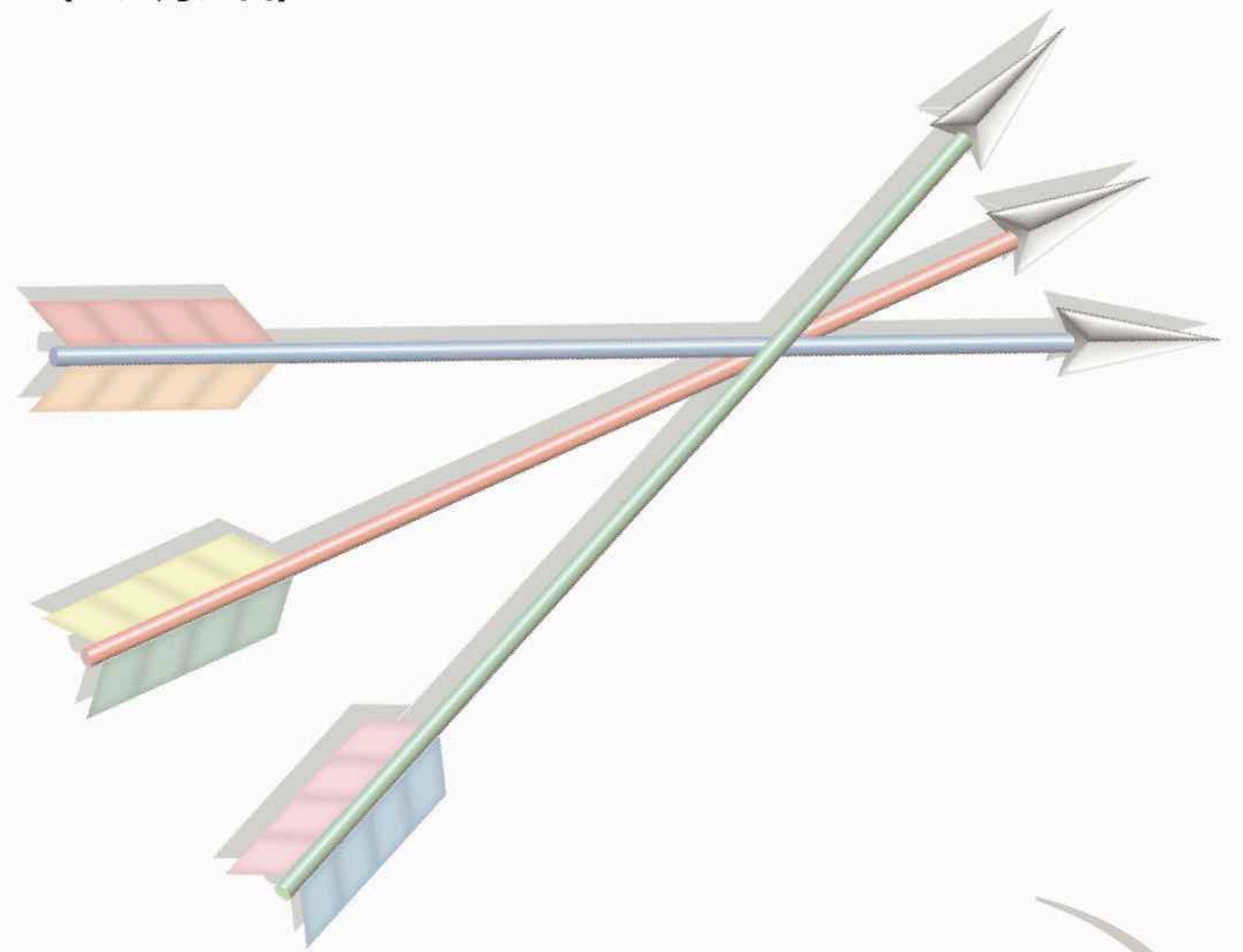
千代田・豊平・芸北・大朝各地域から役員・世話人の皆さまにお集まりいただき、北広島町支部発足式 (11月27日)



150名を超えるご参加をいただき深川支部国政報告会が開催 (12月2日)



徳裕志市議が来援、緑井支部発足一周年国政報告会 (12月10日)



みなさまとのふれあいを重ねて



祇園商工フェスティバル (10月30日)



安佐南区民まつり・安佐南区農業祭 (11月6日)



伴南学区集会所フェスティバル（11月27日）



佐東公民館まつり（11月27日）



くすの木台コミュニティ祭（11月6日）



3月4日に開業するJR可部線の電化延伸記念祭でこれまでの道のりを思い返す河井克行代議士（12月3日）



安全安心なまちづくり安佐北区民大会・あさきた元気フェスタ（12月4日）



早朝五時からJR安芸矢口駅と矢口三差路交差点で朝立ち。霧が濃い朝でした（12月5日）



唯称庵跡カエデまつり（11月5日）



JA広島北部まつり（11月12日）



おおあさふるさとまつり・大朝神楽競演大会（11月6日）



戸河内えびす講（11月20日）

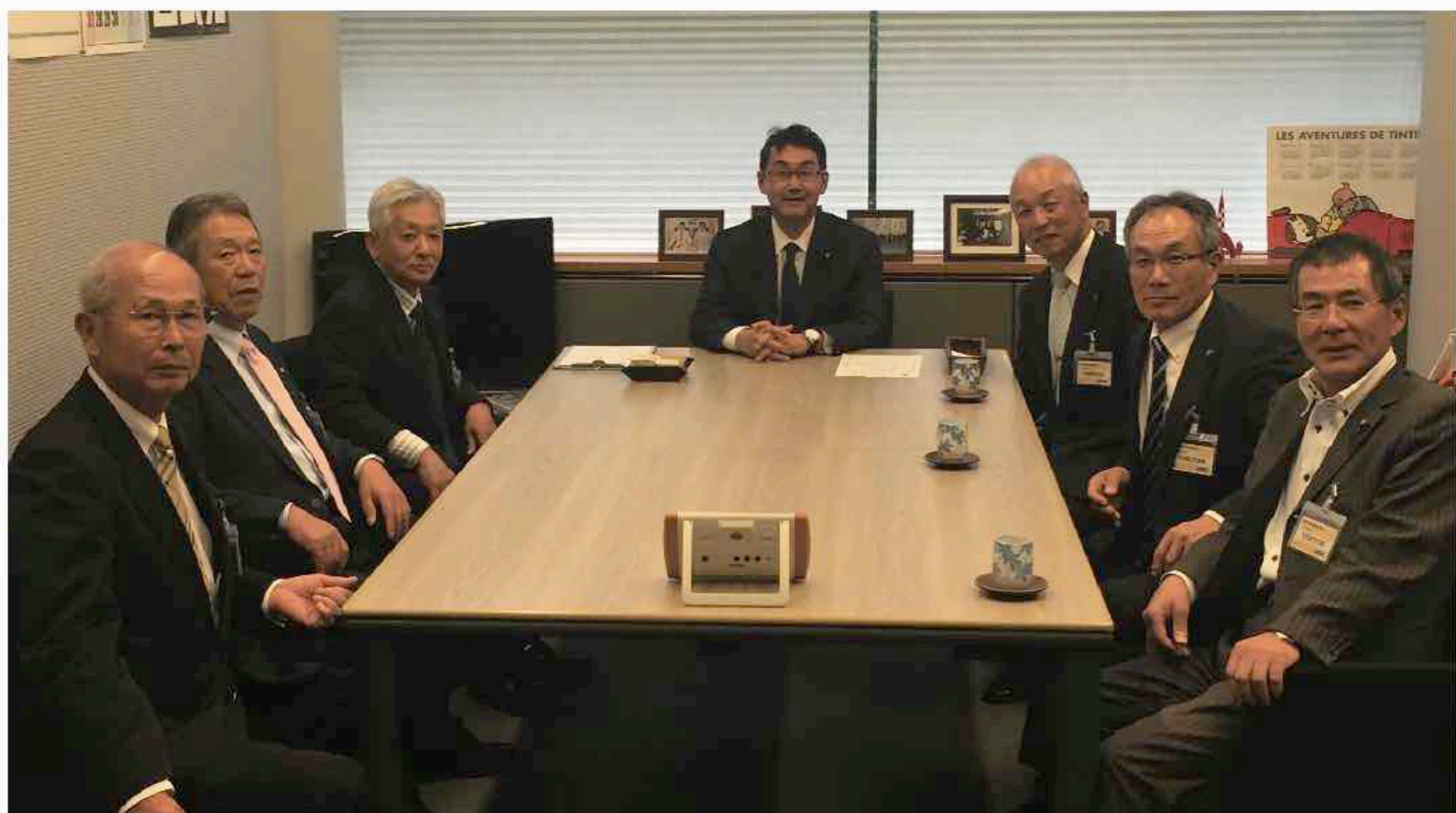
## 官邸の総理大臣補佐官室にご来訪



県土地家屋調査士会役員（6月21日）



広島市議会の谷口修副議長と西田浩・大都市税財政地方創生対策特別委員長（11月1日）



北広島町議会文教厚生常任委員会（11月8日）



# 自民党広島県第三選挙区支部 衆議院議員 河井克行事務所

内閣総理大臣官邸

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-3-1  
TEL：03-3581-0101(代表) 03-3568-8924(直通)

国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 1208号室  
TEL：03-3581-5111(内線71208) 03-3508-7518(直通) FAX：03-3508-3948

広島事務所

〒731-0153 広島市安佐南区安東 2-1-22  
TEL：082-832-7301 FAX：082-878-3301

facebook

河井克行公式フェイスブック更新中

「いいね！」を押して最新活動報告をチェック！  
[www.facebook.com/kawaikatsuyuki](http://www.facebook.com/kawaikatsuyuki)